



第二中だより

No. 563

開校 53周年

生徒数 421名

令和2年 1月8日

和光市立第二中学校

〒351-0106 埼玉県和光市広沢1番4号

TEL 048-462-1793

FAX 048-462-1890

<http://2chu.wako-city.ed.jp/>



「正念場」

校長 橋本 真

新年あけまして、おめでとうございます

ご家族お揃いで良いお年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年中は、本校の教育活動に対して多大なるご協力とご支援をいただきまして、感謝申し上げます。本年も教職員一同、第二中学校の生徒のためにより一層の努力を重ねていく所存です。昨年同様、よろしくお願いいたします。

今年の干支は、子年（ねずみどし）です

14日間の冬休みはいかがでしたか。それぞれに有意義な休みを過ごすことができたでしょう。今年の干支は、子年です。このことを本で調べてみたら、子年（ねずみどし）は十二支の最初ということで種をまくのに適した年、または、種子の中に新しい生命がきざし始める状態であるそうです。次の丑年（うしどし）はまいた種が芽を出し成長するのを忍耐強く見守る年、次の寅年（とらどし）はその芽が勢いよく伸びはじめる年だとされています。新たなる活気が生まれてくることから、新しいことに挑戦したり、区切りをつけて、心機一転頑張ることに適した年といえると思います。

「正念場」ここが正念場

毎年の事ですが、1月2日・3日は、箱根駅伝の中継に釘付けになります。選手たちは、各区間を孤独と戦いながら、1本の「襷(たすき)」を次の走者へと繋げていきます。個人の戦いを繋ぎ合わせた、チーム間の競争。そこに、駅伝独特の魅力が集約されています。箱根駅伝を見ていると、ひとつの目的に向かってチームに取り組む際の、一人ひとりの責任の重さが痛いほど伝わってきます。東京箱根間往復219.7Kmコースには、いくつもの「正念場」があるようです。「権太坂」ダラダラの長い登り、各大学のエースがエントリーする2区、5区の小涌園前の、

ヘアピンカーブの登り、8区の遊行寺（ゆぎょうじ）のラスト5Kmの登りが正念場だそうです。今年は、10区で「襷」が繋がらなかった大学がありました。無念だったと思います。青山学院大学の優勝で96回大会は閉幕しました。

レース終了後、「襷」が繋がらなかった大学の監督は、「来年の大会まで364日、明日から364回の正念場を乗り越え、またここに戻ってきます」、「予選会まで選手づくりが正念場です」という談話を残して、会場を後にしていました。このように、さまざまな「正念場」があった箱根駅伝でした。

1年の計は、「元旦にあり」

さて、『一年の計は元旦にあり』ということですが、自分は何をしたいのか、何をしなければならないのか、何ができるのかをよく考えて、「今年こそは」と新しい年への決意はできたでしょうか。自ら決めた目標に向かって、しっかり実践してください。

明日から授業が始まります。3年生は、進路の実現に向けた、まさに「ここが正念場」です。1・2年生は進級に向けての準備の時期であると同時に、1年間を「締めくくる正念場」です。3学期は、皆さんにとっての中学校生活の正念場になります。

明日からの「正念場」を乗り越えるために

自分の目標に向けた「情熱」と「粘り強さ」、そして、「やり抜く力」を高めていくことが重要です。最後まで、「やりきる」習慣を身につけてください。小さな事を毎日、1歩ずつ前へ進めてください。人は、誰でも限界に直面するものです。しかし、実際には、私たちが思っている以上に、勝手に無理だと思いついてしまっている場合が多々あります。「もう少し頑張ってみよう」、「もう1回やってみよう」という意識を持ってください。そのことで、「やり抜く力」は高まっていきます。これが正念場を制するコツだと思います。



